



文責 本宮小学校長 佐久間仁

全国学力調査から



四月十八日(火)、六年生を対象に全国学力・学習状況調査が行われました。このたびその結果がまとまりましたので、本校の概要についてお知らせします。

〈調査内容〉

- ①教科に関する調査(国語、算数)
- ②児童質問紙調査

【教科に関する調査について】

○国語は、全国平均より高い結果でした。領域別では、「言葉の特徴や使い方」「情報の扱い方」「話す・聞く」「書く」「読む」のいずれにおいても全国平均を上回りました。問題別では、「目的に応じて、文章と図表などを結び付けるなどして必要な情報を見付ける」「必要なことを質問しながら聞き、話し手が伝えたいことや自分が伝えたいこと」の中心を捉える」「図表やグ

ラフなどを用いて、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫する」などが全国平均を上回りました。一方「学年別漢字配当表に示されている漢字を文の中で正しく使う」が全国平均を下回りました。

○算数は、全国平均より高い結果でした。領域別では、「数と計算」「図形」「変化と関係」「データの活用」のいずれにおいても、全国平均を上回りました。問題別では、「(二位数)・(二位数)の筆算に

ついて、図を基に、各段階の商の意味を考える」「示された棒グラフと、複数の棒グラフを組み合わせたグラフを読み、見いだした違いを言葉と数を用いて記述する」「高さが等しい三角形について、底辺と面積の関係を基に面積の大小を判断し、その理由を言葉や数を用いて記述する」などが全国平均を上回りました。一方「台形の意味や性質について理解する」「伴って変わる二つの数量が比例の関係にあることを用いて、知りたい数量の大きさの求め方と答えを式や言葉を用いて記述する」などが全国平均を下回りました。

【考察】授業においては、対話的

な活動を多く取り入れています。が、クラス全体での話し合いになると、一部の児童だけが発言して、他の児童は異なる考えや意見を出しづ

らい状況がみられます。結果として納得できない(よく分からない)ままに授業が進んでしまい、知識

・技能を身に付けることができない児童が一部にいるのではないかと考えています。五年生の後半から、習熟度に応じたコース別学習

を行うなど、きめ細かい支援を行ってききましたが、理解が十分でない児童の力をいかに伸ばすかが今後の課題といえます。授業の後半に習熟の時間を確保したり、苦手

領域を中心に授業外(朝自習や家庭学習など)で復習問題に多く取り組ませたりするなど、よりきめ細かい指導の充実を図り、基礎基本の定着を図っていきます。

【児童質問紙調査について】

○夢や希望をもち、自ら課題意識をもつて学習に取り組むことができる児童が多いです。特に、国語科や算数科の授業を好む児童が多く、対話的な学習を通じて、様々な考えに触れ、それらを生かして自分の考えをまとめようとしています。授業で学んだことを他の学習に生かそうとする意識が高いです。本が好きで、授業以外の時間に進んで読書をする習慣が身に付いています。地域の行事に進んで参加しようとする児童が多いことも特徴です。しらすわ夢図書館との連携による読書活動やコミュニ

ティ・スクールを核とした人材活用による地域学習(探究的な活動)の成果が感じられます。

○英語専科教員による英語活動が充実する一方で、授業以外で英語を生かそうとする意識が低いです。

ICT機器の効果的な活用にも課題があります。今後、個に応じた学習を通して、基礎基本の定着を図るためにも、タブレットの持ち帰りを含めたICT機器の活用を検討していきます。

なお、個人の結果については、後日配付いたします。お子さんの頑張りを褒め励ましてください。

熱中症に注意



下校時の安全確保にご協力をお願いいたします。学校では、熱中症対策として休み時間に屋外で遊ぶことを控えています。今後も子どもたちの健康面に配慮した対応をしていきます。新型コロナウイルス感染症防止のためにもご家庭で十分な睡眠や栄養がとれるようご配慮をお願いします。



室内遊び